



# 神奈川県事業本部 123運動ニュース NO2

第24次123運動  
2012年1月17日  
発行 神奈川県事業本部  
(担当 松木 修)

川崎エリアにつづき、1月15日県央エリアの123集会在地域福祉事業所「かがやき」に隣接する「東健ふれあい会館」でおこなわれました。県央エリアは二つの福祉事業所と生協の物流を中心にした歴史ある既存の事業所の三つで構成されています。第一回目となる県央エリア集会は、川崎や横浜ほどの規模はないにしても、それでも全体で33名が終結し、所長から現場責任者まで、現場の声が十分に反映される集会となりました。エリア



では新年度に向けて様々な可能性が大きく広がっています。相模大野での「学童クラブ」。藤沢につづき、肢体不自由児の児童デイサービス、精神障害者のグループホームなど。また相模原市からは、生活保護者世帯の生活支援業務などの話も年末に話がきたりと今年は大きな事業拡大の予感がしています。

夏までに児童デイを

本部の山田専務補佐が123集会の意味を説明し、その後エリアマネージャーから123集会の方針として

① 社会連帯を視野に入れた事業拡大を！



精神GHについて



各現場から報告

今年国際協同組合年であることをふまえて、各事業所とも123計画の中に労協の学習会を盛り込んでいます。歴史や経営、仕事おこしの仕方など、事業所の体制の強化が必要であることが強調されました。

事業団以外では、特別発言として「精神障害のグループホームづくり」について座間養護学校の深澤先生より発表があり、精神障害当事者の方も参加し、自分の発症の体験からグループホームの必要性について話していただきました。また「放課後教室たんぼぼ」で一緒に活動している「ゆいまーる」の津田さん、根本さんも是非、ワーカーズと一緒に夏までを目標に立ち上げたい、と決意を述べました。交流会では、本部長、副本部長を交え、事業所の組合員のそれぞれの思いを自由に語れる楽しい場となりました。

② F E C 自給圏に向けた取り組みを！③国際協同組合年に向けて協同労働らしい組織づくりを！の三点を柱にあげ、F E C 自給圏の取り組みでは、各事業所で廃油を回収し、神奈川の廃棄物収集車をバイオディーゼルで動かそうと提案しました。

交流会のようす



